喜志西遺跡Ⅱ

富田林市遺跡調査会報告20
編集・発行　富田林市遺跡調査会
住　　所　〒584−8511
富田林市常盤町１番１号
発行年月日　2000年７月31日

調　査　地　大阪府富田林市喜志町三丁目968-3
他６筆
調査原因　共同住宅建設に伴う緊急発掘調査
調査主体　富田林市遺跡調査会
調査担当者　田中正利
調査面積　207.6m²
調査期間　2000年６月２日～７月31日

はじめに（図１）

喜志西遺跡は富田林市の北部、近鉄長野線喜志駅周辺に広がる縄文時代から近世にかけての遺跡です。これまでの調査で弥生時代中期の方形周溝墓や土器棺墓が見つかっており、喜志西遺跡の北東にある、弥生時代の石器作りの集落として知られる喜志遺跡の墓域と考えられています。この他にも古墳時代から中世にかけての溝や井戸、近世に綿などを栽培した島畠の跡が見つかっており、包含層からは旧石器が出土しています。

今回、喜志駅東出口のすぐそばの地点について、施主の山本岩男氏の協力を得て、敷地の西側に第１調査区、東側に第２調査区を設けて発掘調査を行いました。

層序

現況では第1調査区が宅地、第2調査区が耕作地になっていますが、第1調査区の宅地はもともと第２調査区と同じ高さの耕作地の上に約1.3mの盛土をしていることが分かりました。

基本層序は両調査区とも同じで、耕作面が2面確認でき、直下で地山となります。ただし第1調査区

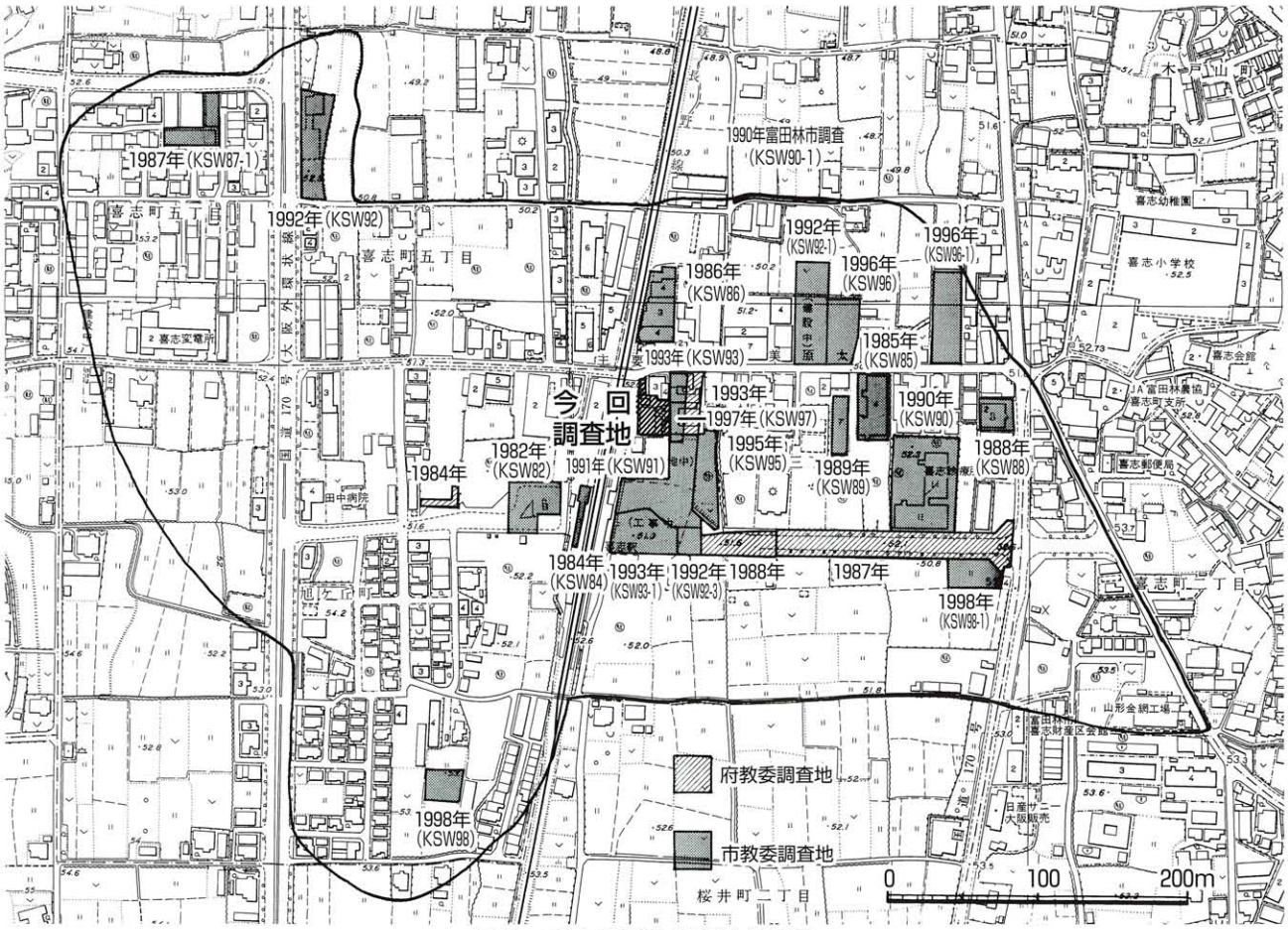

図１　喜志西遺跡調査地位置図

の西側は1段高くなり、耕作面が1面になります。遺構はすべて第1調査区の現況面から約0.4m下の地山面で確認されました。

遺構と遺物（図2・3）

今回の調査では流路1、溝5、土坑17、ピット8が見つかりました。遺構の埋土は大きく4種類に分けることができ、遺構の切り合い関係から褐灰色弱粘質土が最も古く、暗褐色粘質土、灰色粘質土、灰黄褐色粘質土の順に新しくなるようです。

主な遺構としては次のようなものがあります。

流路　第1調査区西側から北側にかけてみつかった流路で、幅が2.5～3.4mありますが、深さは0.1mと浅いものです。流路は第2調査区南西隅あたりから北東に向かい、調査区北端あたりで東に大きく蛇行しています。埋土は褐灰色弱粘質土で、常に流れていたのではなく、雨が降ったときなどに一時的に流れたものであると考えられます。遺物は出土していません。

溝1　第1調査区南西部分で見つかった幅0.6mの溝です。深さは西側で約0.1mあり、東側では1段低くなり0.2mになります。埋土は暗褐色粘質土で、遺物は出土していません。

溝2　第1調査区で見つかった蛇行した溝で、幅が1.0～1.3mあります。深さは北側が約0.9mあるのに対し、南側は約0.1mと極端に浅くなっています。埋土は褐灰色弱粘質土で、深くなる部分はその下に砂と暗褐灰色粘質土の堆積が見られます。遺物としてサヌカイトの石鏃と剥片（図2）が出土しています。

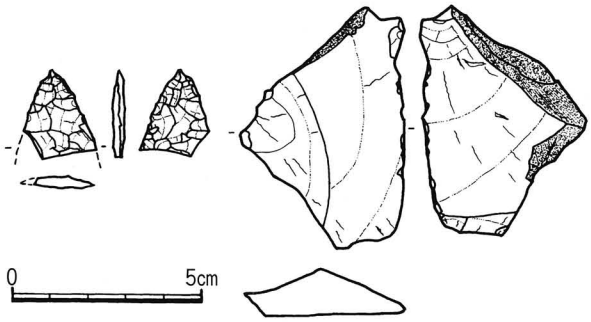

図2　溝2出土遺物

種　別	形　状	大きさ（m）	深さ（m）	土　　色	遺　　物
土 坑 1	（不整形）	(2.37)×1.83	0.78	暗褐色粘質土	
土 坑 2	（不整形）	(1.22)×0.58	0.28	暗褐色粘質土	
土 坑 3	不整形	2.48×1.18	0.32	灰黄褐色粘質土	焼土塊
土 坑 4	不整形	3.22×1.60	0.77	暗褐色粘質土	
土 坑 5	不整形	2.12×1.58	0.43	暗褐色粘質土	
土 坑 6	不整形	1.74×0.89	0.19	暗褐色粘質土	
土 坑 7	（方　形）	(1.21)×1.24	0.63	暗褐色粘質土	
土 坑 8	楕円形	1.29×1.15	0.28	暗褐色粘質土	
土 坑 9	不整形	4.08×1.73	0.18	上層：黒褐色粘質土に炭が混じる 下層：褐灰色混砂弱粘質土	サヌカイト
土 坑 10	（不整形）	2.12×(1.28)	0.7	暗褐色粘質土	
土 坑 11	（不整形）	(1.44)×1.38	0.05	褐灰色粘質土	
土 坑 12	（楕円形）	(2.21)×(0.74)	0.08	褐灰色粘質土	
土 坑 13	不整形	1.68×0.66	0.17	暗褐色粘質土	
土 坑 14	（不整形）	2.96×(1.12)	0.56	暗褐色粘質土	
土 坑 15	不整形	1.44×0.94	0.08	褐灰色粘質土	
土 坑 16	（不整形）	(3.92)×1.88	0.11	褐灰色粘質土	
土 坑 17	（不整形）	(1.34)×1.10	0.22	褐灰色粘質土	
P － 1	（不整形）	0.54×(0.42)	0.1	褐灰色粘質土	
P － 2	（不整形）	0.92×(0.48)	0.06	灰色粘質土	
P － 3	不整形	1.41×0.70	0.05	褐灰色粘質土	
P － 4	（楕円形）	1.51×(0.42)	0.11	灰色粘質土	
P － 5	（隅丸方形）	(0.75)×0.70	0.55	暗褐色粘質土	
P － 6	（不整形）	0.60×(0.54)	0.28	褐灰色砂質土に礫を含む	
P － 7	（不整形）	1.12×(0.24)	0.11	褐灰色粘質土	
P － 8	楕円形	0.43×0.25	0.09	褐灰色粘質土	

表1　遺構一覧表

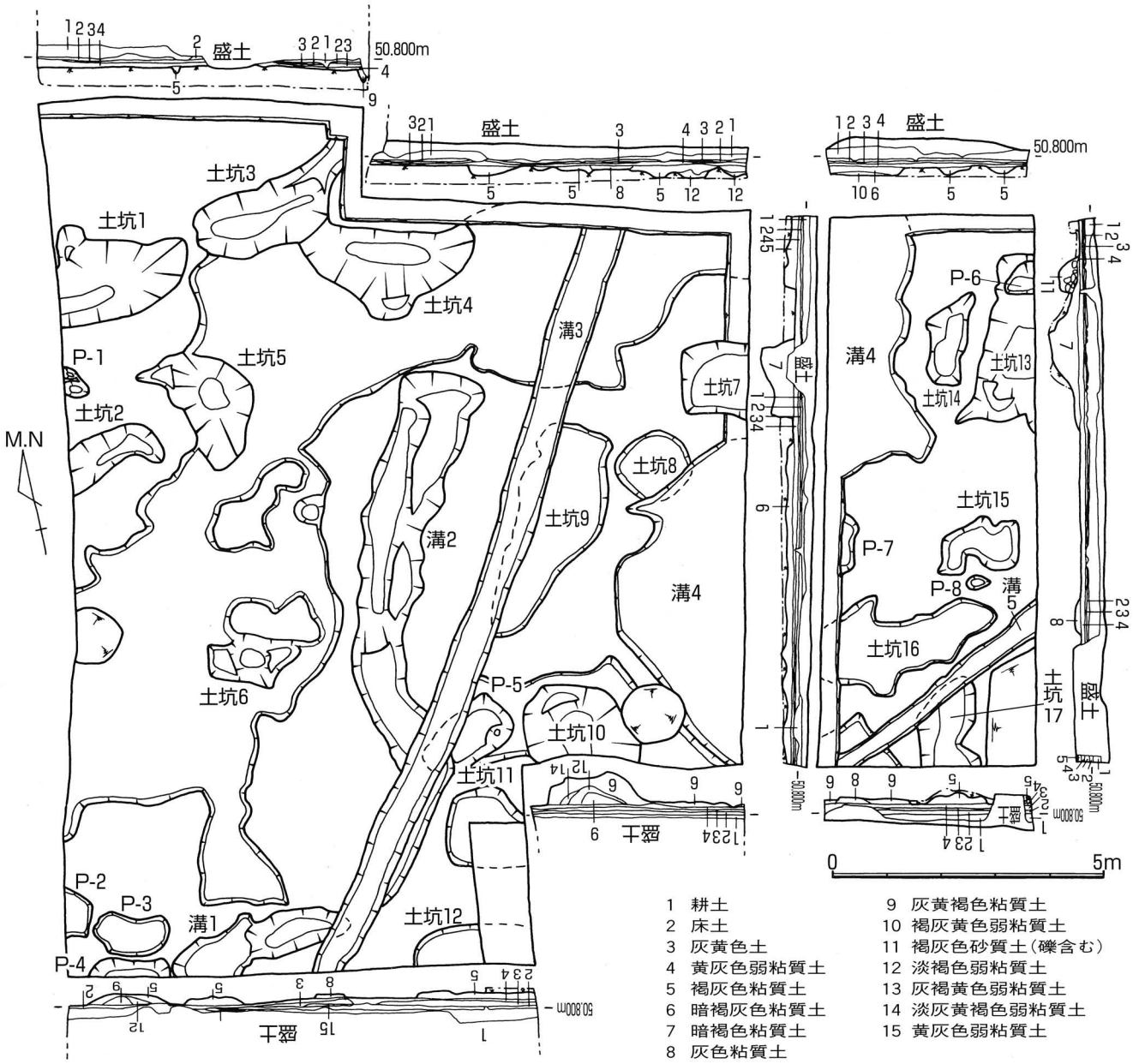

図３　遺物平面・断面図

溝３　第1調査区中央を南北に通る、幅約1.5m、深さ約0.1mの浅い溝で、底部は南から北へ傾斜しています。埋土は灰色粘質土で、６世紀代の須恵器の小片が１点見つかっていますが、周囲の調査から中世の遺構と考えられます。

溝４　第1調査区から第2調査区東側にかけて見つかった溝で、第1調査区で西肩を、第2調査区で東肩を確認しています。深さは約0.1mあり、幅は両調査区にまたがっているため正確な幅は不明ですが、1.5～2.0mと推定されます。西肩の形状から溝は直角に折れ曲がっているようです。埋土は暗褐灰色弱粘質土で、遺物は出土していません。

溝５　第２調査区南側で見つかった南西から北東へ通る溝で、幅約0.3m、深さ約0.1mあります。埋土は灰色粘質土で、遺物は出土していませんが、東隣にある富田林市教委1997年度調査地でこれにつながる溝が見つかっており、この埋土からは瓦器碗の破片が出土しています。

まとめ

今回の調査地点の東隣にある富田林市教委1997年度調査地で北西方向の主軸を持つ弥生時代中期の方形周溝墓が見つかっています。このとき見つかったのは墓の東半分で、今回見つかった溝４が、溝の方向と埋土の色調からこの方形周溝墓の周溝の西半分に当たると考えられます（図４）。

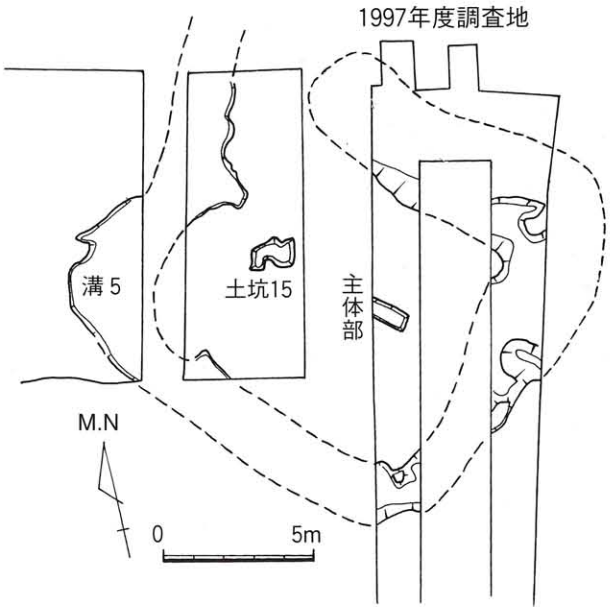

図4　方形周溝墓復元図

調査区全景（東から）

この方形周溝墓は東西約14.7m、南北約11.5mと復元することができ、墳丘は上面で東西約10.0m、南北約7.5mあります。北側の角は周溝が途切れていたと考えられ、墓の中へ出入りできたようです。1997年度調査地では墳丘の端に近い所で長方形の墓壙が確認されています。土坑15はこの墓壙と対称の位置にあるので土器棺などの堀方になる可能性もありますが、遺物が出土していないためよく分かりません。

近鉄長野線の東側には方形周溝墓が南北に細長く分布しており、これまでに南北約250mの間に今回のものを含めて8基が確認されています。今回の方形周溝墓はこの方形周溝墓群の南端にあたります。また西側には流路があり、これより西側に弥生時代の墓域が広がらないようです。

今回の調査では遺物がほとんど出土しておらず、周辺の調査を含めてピットがあまり見つかっていないことから、この辺りが集落から離れた地点であると考えられます。この辺りは粟ヶ池から北へ延びる開析谷の底の部分に当たり、粟ヶ池はこの谷をせき止めて造られています。KSW92-1調査地では粟ヶ池がせき止められる前に流れていた流路が見つかっており、この流路による洪水を恐れて集落を造らなかったと思われます。

ふりがな	きしにしいせき2
書名	喜志西遺跡Ⅱ
副書名	富田林市遺跡調査会報告
巻次	20
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著書名	田中正利
編集機関	富田林市遺跡調査会
所在地	〒584－8511　大阪府富田林市常盤町1番1号　☎0721－25－1000
発行年月日	西暦2000年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
喜志西遺跡（きしにしいせき）	大阪府富田林市（おおさかふとんだばやしし） 喜志町三丁目（きしちょう） 968－3他6筆	27214		34° 31′ 12″	135° 36′ 37″	2000.6.1 ～ 2000.7.31	207.6	共同住宅 建設に伴う 緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
喜志西遺跡	墓域、その他	弥生時代～中世	溝、土坑、流路 ピット	サヌカイト	